

## 研究会合

### スカルノ国際共同研究発会式

日時：2015 年 7 月 22 日（水）13:00 ～ 15:45

場所：世田谷キャンパス 34 号館 B301 教室

講演者：プティ・グントゥール・スカルノ氏  
（インドネシア国会議員、スカルノ初代大統領御令孫）

コーディネーター：柴田 徳文（政経学部）

インドネシア共和国独立の父であるスカルノ大統領（1901～1967）の功績とそれらの意義を広く公表することを目的とした国際共同研究を、スカルノ家と当センターが中心となり進めることとなった。

7 月 22 日、プティ・グントゥール・スカルノ氏およびスカルノ家の皆さまと内外関係者・研究者を本学に招き、国際共同研究発会式が執り行われた。式は以下のように行われた。

- (1) 河先俊子副センター長による開会の辞
- (2) 来賓の紹介
- (3) 当センター客員研究員であるプティ・グントゥール・スカルノ議員の委嘱辞令の交付
- (4) 柴田徳文センター長による本研究会の研究趣旨説明
- (5) 三浦信行学長の挨拶
- (6) 来賓挨拶  
越智隆雄衆議院議員代理米山淳子氏  
在日本インドネシア共和国大使館 M. イクバルジャワド教育アタッシェ
- (7) 記念品贈呈
- (8) 戸津正勝客員研究員による、スカルノ大統領の功績の紹介
- (9) スカルノ大統領紹介映像上映
- (10) プティ議員講演「インドネシア統一への希望の星『パンチャシラ（建国 5 原則）』」
- (11) グントゥール・スカルノ氏（プティ議員父君、スカルノ大統領ご長男）のコメント

以下は講演等の概要。

◇研究趣旨説明（柴田徳文センター長）：インドネシアは数百に及ぶ民族を抱え、これまで分裂の危険性を孕みながら「多様性の中での統一」が成し遂げられてきた。このようなインドネシアの経験が世界規模の融和の力になり得ること、さらに、インドネシアを独立・統一へと導いたスカルノ

---

大統領の偉業については十分に研究され尽くされたとは言えないので本研究を世界に公表する意義が大きいことを説いた。

◇スカルノ大統領の功績の紹介（戸津正勝研究員）：オランダ領時代後期から独立に至るまでのインドネシアと我が国との関係に焦点を当てて、スカルノ大統領の功績についての解説がなされた。戸津研究員は、スカルノが第三世界の軸を作った人物であること、また、インドネシアのみならず世界の英雄であることを再認識する必要性を説き、本研究プロジェクトの意義を改めて確認した。

◇プティ・グントゥール・スカルノ氏より、「インドネシア統一への希望の星『パンチャシラ（建国5原則）』」というテーマで講演が行われた。